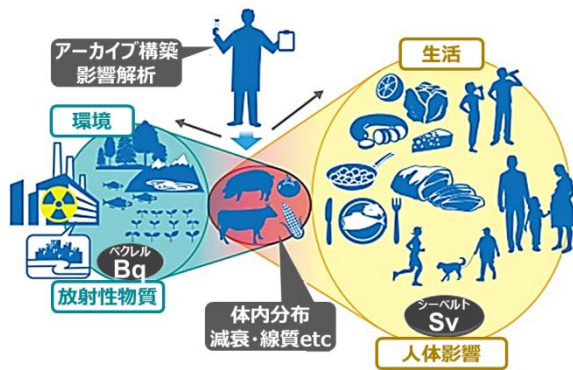


原子力災害からの復興に向けた研究支援基金

はじめに

東北大学は、東日本大震災後に発生した福島第一原子力発電所（福島原発）の事故による放射線被ばくの環境や生物、人へ与える影響を明らかにし、今後の環境・生態や人の放射線防護に役立てるための調査研究を推進しています。



環境・生態や人の放射線防護に役立てる調査研究

原子力災害からの復興に向けた取組

福島原発事故後の旧警戒区域に残されて安楽死処分された家畜や、今も生息している野生動物（被災動物）の影響調査・解析を行っています。被災動物の放射線被ばくは、環境中の放射性物質による外部被ばくと、体内に摂取した放射性物質による内部被ばくの両方による複合被ばくで、人よりも高度に被ばくしています。その中でも、人に最も近縁な被災野生ニホンザルの影響調査によって、福島原発事故による環境・生態への影響を知り、人の健康への放射線影響を理解するための科学的知見を得ることが期待されます。



旧警戒区域内で生活している被災野生ニホンザル

原子力災害からの復興に向けた研究支援事業

1. 長期的な研究調査への挑戦・科学的知見の蓄積

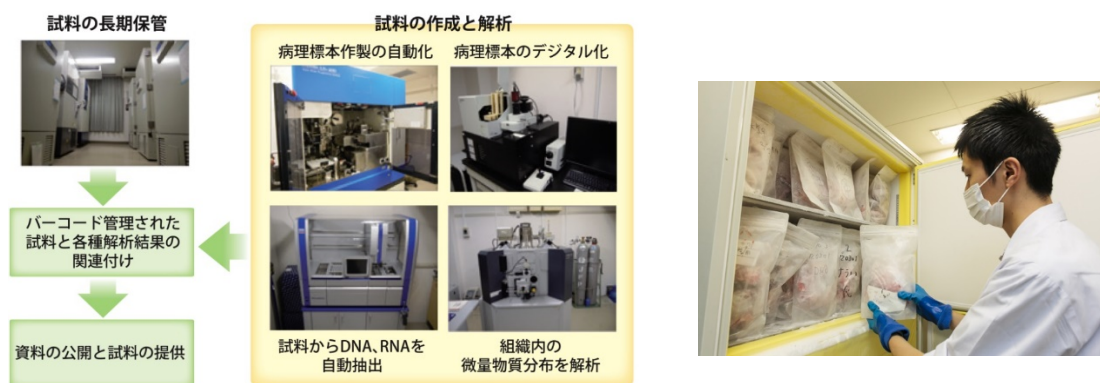
福島原発事故の特徴である低線量・低線量率放射線被ばく影響を正しく知るためには、数十年単位の長期間にわたる継続的な調査研究が必要です。

支援の具体例

- ・研究者雇用経費、調査研究に必要な経費 等

2. 科学的知見の蓄積

将来に様々な解析ができるように収集した試料のアーカイブを構築し、研究者へ提供をしています。放射線被ばくの生物影響を正しく理解するためにはまだまだ多くのことが解明されておらず、そのためには、さらなる科学的知見を蓄積する必要があります。貴重な試料を次世代へ継承することで、現在ではとらえられない変化も将来の科学技術の進展で明らかにされることも期待されます。



試料アーカイブの概要

貴重なサンプルの超低温保存

支援の具体例

- ・研究教育環境の整備、アーカイブ試料の長期保管 等